武並小学校のホームページ　http://www.ena-gif.ed.jp/takenami-e

武の子

平成 31 年 1 月 15 日
恵那市立武並小学校
学校報　No.10
TEL　0573-28-2028
takenami-e@ena-gif.ed.jp

校長　長谷川　満

遅くなりましたが、あけましておめでとうございます。今年度は残り４７日間になりましたが、よろしくお願いします。

１２月には師走の忙しい中、保護者アンケートに御協力いただきありがとうございました。遠足の復活や年間の行事の見直し、そして情報公開など学校教育へのご理解や励ましのご意見が何件もあり、ありがとうございました。

学校改善に向けての意見をいただきましたので、昨年と同様に回答を掲載します。

保護者アンケートの意見への回答

Ｑ１　運動会に１年生のリレーを入れてほしい。

Ａ１　来年度も９月（９／２８予定）に運動会を開催しますので低学年のリレーを導入する方向で検討します。こども園等でも年長は迫力のあるリレーができています。春に実施していた運動会では１年生などの低学年は体育の時間数の中で演技を覚えることだけで精一杯の状態でした。春の実施の運動会と共に以前に実施していた低学年リレーがなくなっていたかもしれません。実際、秋の運動会はいくつもの学校で低学年もバトンをリングにしてリレーを実施しています。よい提案を投げかけていただきました。

Ｑ２　低学年までは学級通信が１週間毎発行され学級の様子がよく分かりましたが、中学年以降は「学級通信」が少なくなり学級の様子や連絡が抜けてしまい、心配しています。

Ａ２　以前は毎日通信を発行する教師がいましたが、現在では教員の仕事軽減で通信を発行しない傾向にあることをご理解ください。来年度からは週の時間割を配布し、基本的にはその通りの日課を実施する計画です。学級の様子は学年毎にホームページで様子が分かるように更新画面の工夫を行います。また学級担任から聞き取った「ショートコラム」をホームページ掲載していく計画です。学級通信で行われていたことをＩＣＴのネットを使っていく方向です。

Ｑ３　先生の目の行き届く人数は１８人ということが言われています。勉強についていけない子をなんとかしてほしい。また個性や才能の芽を摘むようなことのない教育を望みます。

Ａ３　塾へ行けない子に対しての支援、学校で学習したことを家でも繰り返す学習環境を創り出す研究を恵那市と共に推進します。高学年は一人１台のタブレットを配布して授業でも家庭での学習でも学習アプリやネットを使った学習支援をするなどの指定校に武並小学校が来年度なる予定です。この機会に学習についていけない子を一人でも減らす研究を進めます。また導入するネットを使った学習は中学３年生までの学習もできますので才能をさらに伸ばすことにもつながると考えています。

Ｑ４　１２月の観劇はもっと早めに保護者への連絡がほしかった。

Ａ４　国の演劇体験事業の劇でしたので劇団との交渉が思うようにいかず、直前に保護者への公開が許可されたことをご理解ください。来年度は親子コンサートや観劇、発表会などは年間計画を明確にして年度当初にお伝えします。

Ｑ５　運動会は熱中症や天気の心配があるので５月に戻してほしい。

Ａ５　運動会は「育てる」という面からは秋が適切です。前記の理由から恵那市の小学校は３校あった５月の運動会は来年度から０になり、１３校すべての小学校が秋の開催になります。熱中症の対策は十分配慮して取り組みます。

他校も含めて、小学校で秋に運動会が開催されることになったのは恵那市では校舎建築や校舎の大規模改修工事のために春に開催するしかなかったためです。

Ｑ６　学校で使うノートや鉛筆などは購買部を復活させて販売してほしい。

Ａ６　学校で現金を扱う購買部は生活用品を購入する店の近くに文房具店がないという山間部の地域に限定されています。学習ノートについては年度当初に担任が一斉に購入しますので、同種類のノートを購入してください。

Ｑ７　いじめアンケートのやり方を変えてほしい。以前の直接聞くやり方に戻したらどうか。

Ａ７　武並小学校は市内でも一番いじめの件数を正直に教育委員会に申請しています。いじめと感じたりいじめと思ったりしたことは全ていじめの件数として数えています。いじめの件数は少ない方が良いですが、いじめの件数を把握して、全てのいじめを解決することを大事にして取り組んでいます。これはいじめだが、あれはいじめではないという定義ではなく、いじめの定義は「いじめられたと思ったらいじめ」として今後もカウントしていきます。

毎月行っている「いじめ調査」から武並では人権教育を推進することが早急の大きな課題です。

Ｑ８　通学時の荷物が重すぎると言われていますが、対策はあるでしょうか。

Ａ８　夏以降、学校に置いていってよい教科書や文具を検討して、持ち帰る物を少なくしました。来年度は４月以降に配付するタブレット（コンピューター）を持ち帰って家庭で学習をすることも計画として進んでいます。さらに学校に置いていく物と持ち帰る物を精選しなければいけません。家庭で教科書を開く必要のない教科書は基本的に学校に置いていくようにしていく計画です。

Ｑ９　資源回収の金額をあげるために、コミュニティにリサイクルステーションを設置してはどうでしょうか。

Ａ９　市内の学校では提案されたことを行っている学校があります。武並町の代表の意見もいただきながら検討していくために学校運営協議会（コミュニティスクール）の議題に入れて話し合っていきます。現実的にＩＣＴ教育を推進したり学校の遊具を充実したり、そして美しい環境を維持して行くには現在の資源回収の収入では足りません。

その他　職員の言動や対応など学校への意見もありました。来年度は月に一度学校で外部講師による職員研修を開催し、授業を行う技術や教職員としての力をつけていく計画です。

教育は学校と保護者と地域が一体になってはじめて効果があるものです。教育手段に完璧なものはありません。うまく事が進まなかった時に、単純に先生が悪い・親が悪い・地域の問題などと他人を非難することで終わるのではなく、起こったことを少しでもみんなで解決していこうということが次への教育につながると考えています。